

世田谷弦卷郷 永八貫六百五拾文

武州荏原郡世田谷領

今は村高百四拾三石餘 當主井伊掃部頭知行

考るに帳面に世田谷村の事不相見是は永祿の比は世田谷邊村々吉良御料所なる故歟

〔世田谷私記〕武藏國荏原郡菅刈莊世田谷郷は略註往古吉良家の領地なり抑吉良と稱するは足

利家の嫡流以下世代ヲ正三位左兵衛佐賴康卿亦左兵衛督也と號勝光院傍書ニ永祿四年トアリ其子從四位下

左兵衛佐氏朝朝臣號實相院略註世田谷を領し給ふ其比何ほどの貫高にや今に至てわかり難

し土俗の言傳へたるは拾八萬といへど非なり略中世田谷賴康卿をも聲とし彌關東に猛威を

振ひけるが天正十八年七月十八日遂に豐臣秀吉公の爲に被亡略中東照宮駿遠參甲信の國々

を上知し給ひて北條の領國其儘秀吉公より賜り給ふ同年八月朔日江戸の城へ入御是を關東と

云此時氏朝朝臣初て東照宮に謁す同月九日右御領國御配分之節世田谷左兵衛佐氏朝朝臣本

州荏原郡世田谷を賜ふと河肥の記と云ものに見へたり略中同二十年二月朔日吉良家上總國

長柄郡寺崎村に於て千百貳拾五石を給ふ此時世田谷郷は上知し給ふと見へたり略中

世田谷は前にしるすごとく何ほどの貫高なる所か不知古城跡あり今野山なり村高四百拾六

石餘也絃卷村高百三十三石餘なり亦世田谷領と唱へたる所今郷數五拾七ヶ村あり村名今高

谷壹萬三千六百三十四石餘あり是は古の城附村々のみが分りがたし外に蒔田郷も領し給ふ

しかれば何程の領地成や

〔圓覺寺所藏文書〕武藏國都筑郡石河郷内大井三郎跡足立郡畔半郷内鹽田帶刀左衛門尉跡等事

任今月六日寄進狀之旨宗兵庫庫允相共莅彼所所沙汰付下地於金陸寺雜掌可執達請取狀使節更

不可有緩怠之狀如件